

山形大学紀要（自然科学）投稿規定

この規程は、山形大学紀要（自然科学）（以後「自然科学編」と略す）への投稿に必要な事項を定めるものである。

（2000 年 2 月 28 日改訂）

1. 名称及び発行

山形大学紀要（自然科学）／Bulletin of Yamagata University（Natural Science）と称し、毎年 1 回、2 月に発行し、4 号分をもって 1 巻とする。

2. 投稿資格

- (1) 「自然科学編」へ投稿できる者は、本学教職員であることを原則とする。ただし、停年退官した教員及び現在非常勤講師として本学に相当年数勤務し、編集委員会において適当と認めた者については、投稿を認める。
- (2) 本学教職員以外の者との共同研究については、本学教職員が共同執筆者である場合に限り、投稿を認める。
- (3) 本学の大学院学生及び大学院研究生で、編集委員会において適当と認めた者については、投稿を認める。

3. 投稿記事とその種類

自然科学に関する記事で、「自然科学編」編集委員会が適当と認めたもの。

その種類は次のとおりとする。なお、他誌との二重投稿は認めない。

- (1) 原著論文
- (2) 総説
- (3) 資料
- (4) その他（編集委員会が適当と認めたもの）

4. 使用言語及び版組

和文または欧文とする。大きさは A 4 判とし、段組は横一段または横二段とする。

5. 原稿の制限

- (1) 本文、図・表等を含めた刷り上がり総ページが、欧文 21 ページ、和文 35 ページ内とする。なお、図版や図・表の 1 つの大きさは、原則として 1 ページを超えないものとする。
- (2) 前項の制限を超える原稿は、編集委員会が適当と認めた場合に限り、受理されることがある。
- (3) カラー印刷等の特殊な印刷も可能とする。

6. 原稿の作成

別に示す「紀要（自然科学）論文原稿作成上の注意」により作成する。

7. 原稿の提出

- (1) 完成した原稿については、2部のコピーを作り、計3部を図書館総務係に提出する。このうちの1部は、受付日・時間を明記した受領書と共に執筆者が保管する。
- (2) 「自然科学編」の原稿の受付けは常時行うが、各年度の原稿提出の区切りは、6月1日とする。

8. 記事の掲載の可否

- (1) 原著論文については、編集委員会は2名の査読者に審査を依頼する。原著論文以外の記事については、編集委員会が必要と認めた場合は同様に審査依頼する。審査の結果必要ならば、編集委員会は原稿の修正等を求めることができる。
- (2) 掲載の可否は編集委員会が決定する。

9. 校 正

- (1) 校正は、著者の責任において2日以内に行い、再校までで校了するように努力すること。
- (2) 校正は、誤字、脱字等の訂正を原則とする。なお、大幅な訂正が不可欠な場合は、編集委員会の許可を得るものとし、それに伴う経費は著者負担（国立学校校費）とする。
- (3) 冊子、表紙、標題、著者名、号巻数、および柱（欄外見出し）などの体裁に関する部分は、編集委員会の責任において調整する。

10. 掲載の経費及び別刷りについて

- (1) 掲載に要する経費は、制限内のページ数であれば、原則として無料とする。
- (2) 別刷り100部までは無料とする。
ただし、予算額に不足が生じた場合は、著者の負担（国立学校校費）とする。
- (3) 制限ページを超過した場合の印刷経費、及びカラー印刷等の特殊な印刷に要する経費は、原則として著者の負担（国立学校校費）とする。

11. 出版権の許諾

論文を投稿する者は、山形大学に対し、当該論文に関する出版権の利用につき許諾するものとする。

(注) 掲載された論文等は、原則として電子化し、附属図書館ホームページ等を通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

紀要（自然科学）論文原稿作成上の注意

I. 原稿の記述は表題、執筆者名、欧文要旨（Abstract）、本文および文献の順序とする。執筆者の所属は第1ページの脚注に記述する。（IV. 4）参照）

1) 1 和文の場合

電子機器を用いて作成する場合は、A4判、横書き（40行×40行）で、手書きの場合は山形大学紀要規定の原稿用紙を用いること。文章は新しい国語表記により、できるだけ常用漢字を使用する。欧文要旨は本文の前に記載し、10ないし20行程度以内まとめ、Abstractという見出しをつける。

2) 欧文の場合

A4判用紙の片面に、周囲約3cmの空白を残して2段送りにプリントすること。欧文要旨は本文の前に記載し、10ないし20行程度以内まとめAbstractという見出しをつける。ただし執筆者の希望によっては、欧文要旨はつけなくてもよい。

II. 原稿には表紙をつけ、それに投稿する紀要名（自然科学）、論文表題、執筆者名、所属、欄外見出し用の略題（和文：30字以内、欧文：スペースを入れて60字以内）、原稿枚数（表紙を除く）、また表、図がある場合はそれらの枚数を列記する。なお手書きの場合、使用する特殊な活字・字体（ギリシャ文字、ドイツ文字、イタリック、ローマン等）があるときはその旨付記すること。

表紙をつけた論文原稿（オリジナル）とそのコピー2部を作成すること。

III. 表および図について

- 1) 表および図は、一つずつ別紙に、直接版下として使用できる品質で描くこと。各葉に表または図の説明をつけ、第○表、第○図、執筆者名を付記すること。
- 2) 図面の大きさは刷り上がり寸法の1.5～3倍とし、それぞれ希望縮尺を記入すること。
- 3) 方眼紙を用いる場合は、淡青色のものに限る。
- 4) 本文中の原稿用紙の右側余白に、その図および表のはいる箇所を赤色の字で記入すること。

IV. 文献について

- 1) 文献の記述は次の形式とする。雑誌は、執筆者名、表題（省略可）、雑誌名、巻数または号数、ページ、発行年を記載する。単行本は、執筆者名、題目、発行所名、発行場所、発行年を記載する。
- 2) 雑誌の略記は学会の慣例などによること。

3) 文献の引用記号は、自由形式とするが、通し番号の場合もそうでない場合もいずれも [] で表す。

(例 1)

[1] 伊藤昭, 密度効果とこみあい効果, 生物科学, 25, 35 {42, 1973}.

[2] B. Maskit, Decomposition of certain Kleinian groups, Acta Math., (302), 43 {263, 1973}.

[3] 朝永振一郎, 量子力学, みすず書房, 東京, 1965。

(例 2)

[LOP 47] C. M. G. Latters, G. P. S. Occhialini, and C. F. Powell, Nature 160, 453-455, 1947.

[Weh 73] B. A. F. Wehrfrtz, In nite Linear Groups, Springer, Berlin, 1973.

(例 3)

[Davis 1983] Davis, J. H., Biochim. Biophys. Acta, 737, 117, 1983.

[Janiak et al. 1979] Janiak, M. J., D. M. Small and G. G. Shipley, J. Biol. Chem., 254, 6068, 1979.

4) 文献でない備考・注など、*、**などを右肩につけ説明を脚注としその原稿用紙の下部に書くこととするが、本文中の脚注による記述は可能な限りさけること。

V. 最終原稿の調整

1) 掲載が決定した原稿は、フロッピーディスクに記録して提出することができる。

2) 印刷にそのまま使用する版下を作成し、提出することもできる。ただし、編集委員会において、印刷後の体裁・品質等が従来の印刷と比べて同等と認められるものに限る。